

若者UPプロジェクトの内容

- ① IT スキル講習と各団体の支援サービスを組み合わせた支援
- ② テキスト開発
- ③ 講師スキル向上の機会提供
- ④ 全国 4 か所の「サポート オフィス」による参画 NPO への丁寧なサポート

出所) 日本マイクロソフト株式会社ウェブサイト

IT講習の内容

項目	内容
研修名	若者UPプロジェクト Microsoft Office 2010
時間数	20 時間 ・ 想定配分：共通機能/IME 2 時間・Word 6 時間・Excel 6 時間・PowerPoint 6 時間 ・ 1 日あたりの時間数は会場ごと ・ 20 時間の終了後、総合演習として 6 時間～8 時間の実習を予定
使用テキスト	若者UPプロジェクト オリジナル テキスト 制作・著作：Best Active Learning Community（旧：MOT コミュニティ）
受講対象者	未就職の若年者層

出所) Microsoft 「若者UPプロジェクト」 Office2010講師用ガイド

若者UPプロジェクトの目的

- IT スキル講習受講者の「就職等進路決定者の割合」を 30% とする
- IT スキル講習受講者数をのべ 8000 人とする
- ICT を通じIT スキル形成のためのリソースを社会に届ける(web access: 100,000 ビュー)
- 若者支援に取り組むアントレプレナーおよび該当組織の事業成長に寄与する
- 第三者評価による成果を広く社会に発信する
- 受講者が就労／無業状態から職業訓練校等の就労に繋がる次段階に進む事を指す。

出所) 日本マイクロソフト株式会社ウェブサイト

講習修了時のゴール設定

コース目的	Word・Excel・PowerPoint 2010 を使って、実務を意識してドキュメントを効率的に作成できる
コース目標	<ul style="list-style-type: none">・ A4 用紙 1 枚の表があるビジネス文書を作成することができる・ クロス集計表を作成し、適切にグラフ化できる・ データベースの基本的な知識を習得し、簡単な並べ替えや抽出ができる・ さまざまな図解テクニックや特殊効果を使って、発表用の資料を作成できる

出所) Microsoft 「若者UPプロジェクト」 Office2010講師用ガイド

SROI

SROI分析の6つのステージ

1

- 評価対象(scope)の確定とステークホルダーの確定
- SROIの分析範囲(境界)と、だれがそのプロセスにどのように関与するかを明確にする。

2

- アウトカム・マッピング(インパクトマップ)
- ステークホルダーと共に、「変化の理論」であるインパクト・マップを創り上げる。インパクト・マップは、インプット、アウトプット、アウトカムの関係性を可視化

3

- アウトカムを証明するデータの発見とその評価

4

- インパクトの確定
- アウトカムの証拠を集め、それらを貨幣化する。そのプロジェクトがなくても生じた変化や、他の要因によって生じた変化は計測対象から除外される。

5

- SROI(社会的投資収益率)の計測

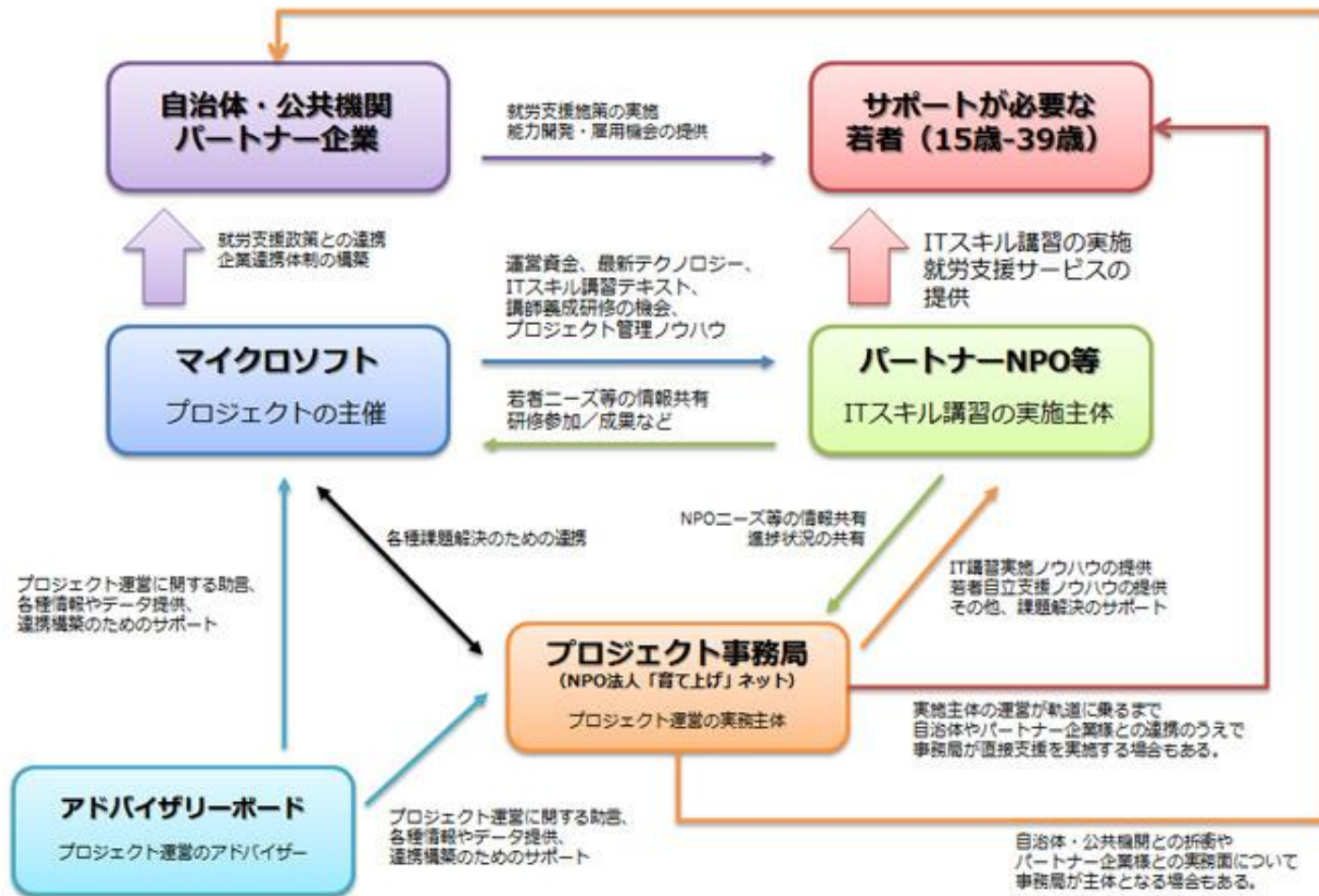
6

- レポーティング
- 事実発見をステークホルダー間で共有・活用し、適切なアウトカム・プロセスを実践に組み込む。

出所:SROI network(2012)pp.10-11を翻訳(加筆修正)

出所) 株式会社公共経営・社会戦略研究所ウェブサイトより抜粋
<http://koshaken.pmssi.co.jp/upfile/sroiintroduction.pdf>

若者UPプロジェクトの体制



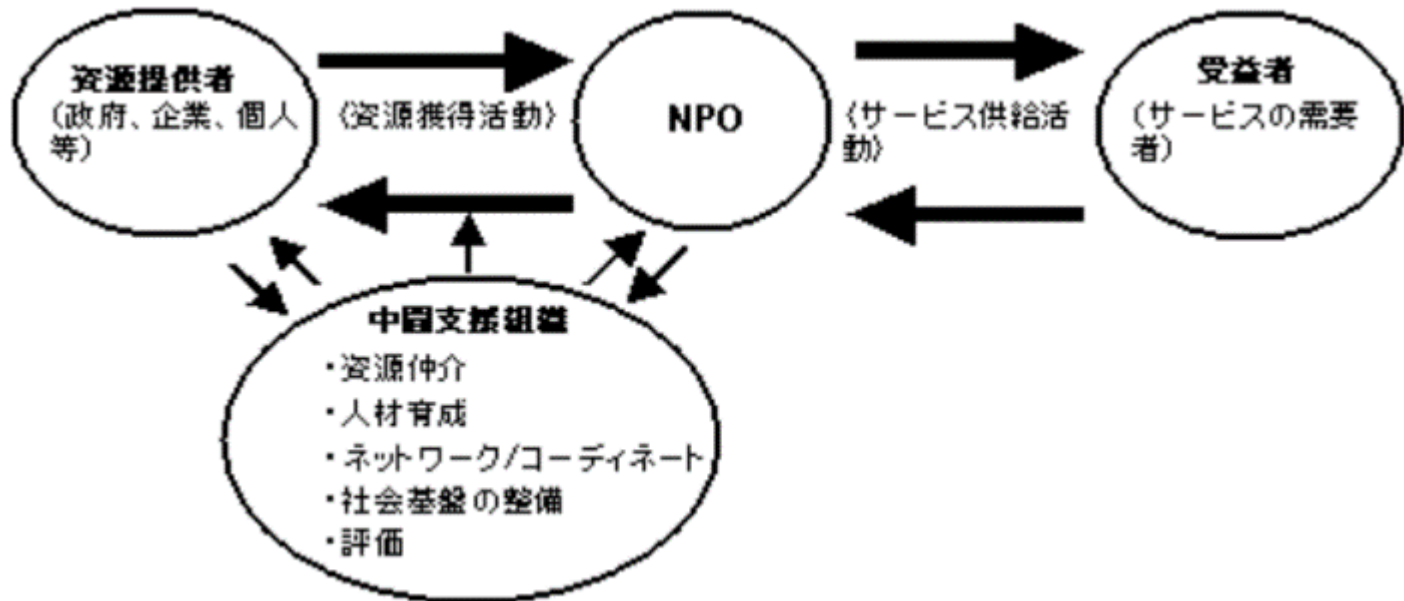
出所) 日本マイクロソフト株式会社ウェブサイト



コレクティブインパクトの視点から見た若者UPプロジェクト コレクティブインパクトを実現するために重要な5つのポイント ③プレイヤー間のシナジー

ファンダー (Funder)	<ul style="list-style-type: none">• コレクティブインパクト型のアプローチに必要な各種リソースを提供• 若者UPプロジェクトにおけるMS社等
プロバイダー (Provider)	<ul style="list-style-type: none">• ファンダーから提供されたリソースを活用して商品やサービスを社会に提供• 若者UPプロジェクトにおける支援団体
コーディネーター (Co-ordinator)	<ul style="list-style-type: none">• ファンダーから提供されたリソースをプロバイダーに共有• プロバイダーから提供される情報の集約• 若者UPプロジェクトにおける育て上げネット
プラットフォーム (Platformer)	<ul style="list-style-type: none">• コレクティブインパクト型のアプローチを推進するためのフレーム、基盤の提供• 若者UPプロジェクトにおける厚生労働省（サポートステーション）

中間支援組織の位置づけ



出所) 内閣府『平成13年度 中間支援組織の現状と課題に関する調査』より抜粋
<https://www.npo-homepage.go.jp/uploads/h13b-2.pdf>